

上肢運動器疾患に対する基本的な考え方

佐藤 彰博

弘前城東学園弘前医療福祉大学保健学部医療技術学科作業療法学専攻 作業療法士



上肢運動器疾患の基本的な考え方について、必要とされる知識、効果判定のアウトカム、共通する介入の3つの視点から概説する。まず、運動器のバイオメカニクスや疾患に関する知識はもちろん重要である。加えて、腱損傷などでは損傷組織を修復した術直後から動かすため、損傷組織の修復課程を理解しておかなければならない。さらに、術後や挫滅損傷では感染予防、絞扼性神経障害などでは重症度に応じた治療が求められることから疾患の病態に関する知識ももたなければならない。次に、治療効果判定のアウトカムには、健康関連 QOL の指標である疾患特異的あるいは部位特異的患者立脚型アウトカムを主要な評価として用いる。これは、運動器疾患においても患者の意向を尊重する患者中心型医療が主流となっているためである。そして、患者立脚型アウトカムを主要な評価に位置付けるということは、患者立脚型アウトカムを改善させる治療を選択する必要があることを意味している。また、患者立脚型アウトカムは、疾患のスクリーニングツール、結果に影響を与える要因の同定、予後予測などにも活用できる。最後に、手術の有無や疾患にかかわらず共通して実践しなければならない介入として、運動と運動指導による“不活動の防止”と、心理的サポートによる“慢性疼痛の予防”を行う必要がある。近年、不安や恐怖などの心理的側面が慢性疼痛に影響し、運動器疾患の治療成績にも関連していることが指摘されている。そのため、今後の運動器疾患の治療では、不安や恐怖を和らげることも重要な治療目標のひとつとなり得る。

略歴 ● 佐藤 彰博 (さとう あきひろ)

- 1985年 3月 岩手リハビリテーション学院 作業療法学科 卒業
- 1985年 4月 岩手労災病院 リハビリテーション科 入職
- 1996年 5月 第9回日本ハンドセラピィ学会学術集会会長 (盛岡市)
- 2004年 8月 弘前ホスピタリティーアカデミー 作業療法科 専任教員
- 2007年 3月 放送大学 教養学部 卒業 (学士)
- 2009年 3月 弘前大学大学院 保健学研究科 博士前期課程修了 修士 (保健学)
- 2011年 4月 弘前医療福祉大学 保健学部 医療技術学科 作業療法学専攻 准教授
- 2015年 3月 弘前大学大学院 保健学研究科 博士後期課程修了 博士 (保健学)
- 2015年 4月 弘前医療福祉大学保健学部 医療技術学科 作業療法学専攻 教授
- 2016年 4月 弘前医療福祉大学 教務部長